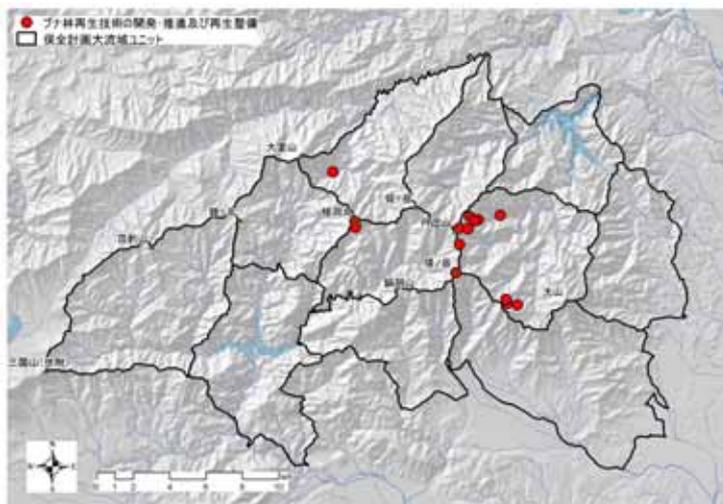


(3) ブナ林の再生技術の開発・推進及び再生整備

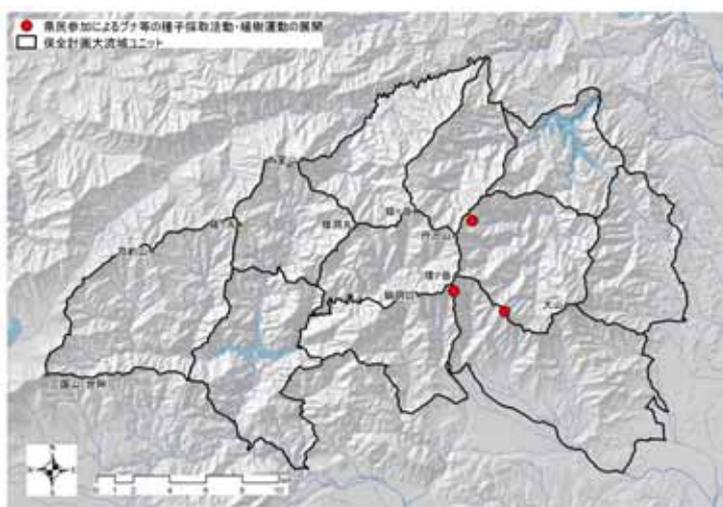
ブナ林の衰退を防止し、山岳地帯にふさわしい森林の保全・再生を図るため、ブナの立枯れ発生地域で森林再生試験を行うなど、丹沢大山のブナ林の再生技術の開発に取り組んでいる。計画策定前の1992年度から2000年度まで、東丹沢の水沢、堂平における気象観測、塔ノ岳などにおける自然林再生試験のための植栽試験、液体窒素を用いたブナ種子の長期保存技術の開発と育苗試験及び丹沢山などにおけるブナ八バチの生態・被害調査を実施した。また2005年度からは、東丹沢堂平で土壌保全のための緊急対策工事の試験施工と検証を実施している。



(4) 県民参加によるブナ等の種子採取活動・植樹運動の展開

ブナ林の衰退防止と山岳地帯にふさわしい森林の保全・再生を目指して、1999年度に大倉尾根で「丹沢の緑を育む集い」の一環として、県民参加による広葉樹等の採種及び植樹を実施した。また、2004年度には、三ノ塔周辺でサイエンスサマー行事の一環として、県民参加で12種類の樹木の採種を実施した。

このほか、水源林苗木育成事業の中で、森林インストラクターの参加によるブナ採種などが実施されている。



(5) 大気・気象に係るモニタリング調査

ブナ林等の衰退機構の解明を目指して、大気・気象に関するモニタリング調査及び地上部のオゾン影響と地下部の土壌構造、菌根などの根圏環境について調査を実施している。気象観測・立地環境調査としては、檜洞丸等4箇所に気象観測装置を設置し、2002年度から連続観測を行っている。また、2003年度から堂平等で根圏環境と生理・生態の調査、2002年から2004年度にかけて丹沢山、檜洞丸、三国山など各地で広域衰退実態調査等を行い、2004年度からは、丹沢山地一帯でサンプラーによるオゾンの濃度測定を実施している。

